

輕音樂部

A group of five Japanese high school students, three boys and two girls, are posing in a classroom. They are all wearing dark blue school blazers and plaid skirts or trousers. The girls are also wearing blue and white patterned bow ties. They are all smiling and have their arms raised in the air, some with open palms, in a gesture of excitement or celebration. They are standing in front of a dark blue chalkboard. The lighting is bright and even, highlighting their uniforms and expressions.

軽音楽部員必見
デジタル版記事



全国高等学校音楽部協会

オリジナル
楽曲募集
応募締切
5/31±

第3回 全国高等学校軽音楽部

オリジナルソング
グランプリ

詳しくはこちら

バンド 弾き語り DTM GarageBand インスト(歌なし)

第3回 全国高等学校軽音楽部

オリジナルソング グランプリ

バンド 弾き語り DTM GarageBand インスト（歌なし）

全国約4,800校の 高校に軽音楽部を！

※現在、軽音楽部があるのは**2,042校**です（令和6年11月1日当協会調べ）

軽音楽部の諸活動を通して若者の成長を応援しています

1 軽音楽部を知ってもらおう

軽音楽部は、部活動としての歴史が浅く、古いポピュラーミュージックやバンドへの偏見も一部に残っており、正しく認知されていないのが現状ですが、軽音楽を通じた部活動の有意義さを学校内外へ広めましょう

2 地域や社会に貢献しよう

軽音楽部の活動は、日々の練習や演奏会などへの出演、大会やコンテストへの参加だけでなく、音楽を通して、地域や社会貢献につながる活動をしていきましょう

3 自主自律した部活動を目指そう

学校教育の一環と言われる部活動のひとつとして、VUCA* と呼ばれる、正解のない時代に翔ける人間の育成を目指し、生徒自身が考えて行動する部活動を目指しましょう

*VUCA（ブーカ）とは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった言葉で、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を意味します

当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご寄付をお待ちしております
詳しくはこちらまで…



特別賛助会員の皆様（敬称略／順不同）

株式会社ミュージックネットワーク	ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	フェンダーミュージック株式会社
一般社団法人サトヤマカイギ	有限会社エムエージー
名古屋芸術大学	株式会社トップトラベルサービス
宝塚大学	株式会社福々家（モアリゾート、ホテル寺尾温泉）
日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校	音楽ロッヂ ゆうげん荘
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社サウンドハウス
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社池部楽器店
名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校	

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



■月刊 軽音楽部 VOL.82 ■創刊：平成25年12月18日（水）■新創刊：令和6年3月25日（月）■第14巻1号通巻82号
■監修・発行／特定非営利活動法人（NPO法人）全国学校軽音楽部協会 JASLMC（Japan Association of School Light Music Club）
〒224-0003 横浜市中区中川中央1-37-6-405 TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900 E-Mail：info@keionkyo.org
■企画・編集／株式会社ミュージックネットワーク

interview



受賞校顧問に聞く

この先も残り続ける部活動を目指して……4

三田学園高等学校 軽音楽部 顧問

笹島裕之

YouTubeの演奏映像を見るポイント……12

軽音協イベント・カレンダー……15

contents

基本を笑う者は基本に泣く！

みんなでできる基礎練習……6

リズム・トレーニング初級・上級編

みんなでやる発声練習

音楽／エンタメ業界の仕事2024

コンサートスタッフの仕事

日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校……16

声優の仕事

専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー……18

From Chief-In-Editor

継続は力なり

創刊から11年が過ぎ、雑誌、編集部、部活動、そして、顧問の先生も等しく時を重ねました。その間、コロナ禍という未曾有の事態に直面し、活動が制限される日々も経験しました。教員の働き方改革や人口に占める子どもの割合の減少といった社会の変化も、学校における部活動のあり方を問い直すきっかけとなっています。しかし、時代や環境が変化しても学校は日々営まれ、授業も部活動も継続されています。変化に対応しながら、変わらずに続けることの大切さを私たちは改めて認識する必要があります。

「継続は力なり」という言葉が示すように、何かを続けることは目に見えない力を生み出します。それは個人の成長につながり、ひいては組織全体の成長をも支える力となります。例えば、3年間部活動を続けた生徒は技術や体力を向上させるだけでなく、困難に立ち向かう精神力や仲間と協力する協調性を身につけます。10年間顧問を務めた教員は生徒の成長を見守る喜びや部活動を通して得られる経験の尊さを知ります。雑誌作りもまた、継続の積み重ねです。毎号、テーマを決め、取材を行い、記事執筆します。その過程で、編集部員は様々な知識やスキルを

習得し、読者とのつながりを深めていきます。もちろん継続は容易ではありません。困難に直面したり、壁にぶつかったりすることもあります。しかし、それでも諦めずに続けることこそが、未来を拓く力となります。

コロナ禍で活動が制限された時期、私たちはオンラインでの交流や新たな企画に挑戦するなど、様々な工夫を凝らしました。教員の働き方改革が進む中、部活動のあり方も見直されつつあります。しかし、どのような状況にあっても、私たちは「継続すること」を諦めませんでした。そこに必ず意味があり、価値があると信じているからです。

11年という歳月は決して短いものではありません。その間に多くの出会いと別れ、そして、数々の挑戦がありました。しかし、私たちは1つ1つを乗り越え、成長してきました。これからも「継続は力なり」という言葉を胸に未来へ向かって歩んでいきます。そして、この雑誌が、部活動が、学校が、未来を担う子どもたちの成長を支える存在であり続けることを願っております。

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之

入賞校顧問に聞く

この先も残り続ける
部活動を目指して

笹島裕之

三田学園高等学校 軽音楽部顧問

●「第2回 全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ（バンド部門）」での優秀賞受賞、おめでとうございます。受賞した「INSOMNIA」は、どんなバンドですか？

笹島…全国学校軽音楽部協会が主催している「高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会」に高校1年生の頃から参加させていたでいるバンドで、4人組のとても明るくて、元気の良い子たちです。いつも「どのように練習すれば、うまくなれるのか」を真面目に考え、取り組んでいるバンドだと思います。例えば、自分たちの演奏を撮影して検証してみたり、いろいろな人たちにアドバイスや講評をいただきながら、日々上達したいと考え、練習に励んでいます。

で入部してくるのですが、彼女たちもそんな理由で集まった感じです。当時は他にもバンドメンバーがいたのですが、メンバーの変更などがあり、現在の4名が残りました。中学1年生の頃からずっと同じバンドで活動しており、「部活動で、たまたま出会った4人組」という色合いが強いかな…という印象があります。いろいろなことを乗り越えて、今日まで活動を続けてきたバンドです。

●現任教への着任時期や軽音楽部の顧問歴は？

笹島…私は本校に着任して、今年度で16年目になります。軽音楽部の顧問としては9年目です。楽器はドラムを演奏することができ、実は、本校は私の母校でもあるのですが、たまたま母校で仕事をするのができ、縁があつて軽音楽部の顧問も務めています。最近はい、あまり熱心に音楽を聴いている方ではないのですが、高校生や大学生の頃は、HIS STANDARD や BLANKEY JET CITY の

歴は…
笹島…私は本校に着任して、今年度で16年目になります。軽音楽部の顧問としては9年目です。楽器はドラムを演奏することができ、実は、本校は私の母校でもあるのですが、たまたま母校で仕事をするのができ、縁があつて軽音楽部の顧問も務めています。最近はい、あまり熱心に音楽を聴いている方ではないのですが、高校生や大学生の頃は、HIS STANDARD や BLANKEY JET CITY の

楽曲をコピーしたり、GREEN DAY を演奏したり、バンドの中に LUNA SEA が好きなメンバーがいたので、同バンドの曲をコピーしていました。

も比較的に時間が取れるのが、火曜日・水曜日・金曜日なのですが、その日は全員で基礎練習に取り組んでから、各バンドがスタジオに入ることにしています。本校は恵まれていることに、バンド練習のできる部屋が4か所あります。8バンドが活動しているので、シフトを組んで使用時間帯を管理しており、どのバンドも週に3回程度はスタジオで練習ができるようになっていきます。機材もスタジオ内に常設されているので、練習時間になつたら、すぐに演奏することができると、恵まれた環境で、とても助かっています。

●部員数やバンド数、コーチなどは？

笹島…部員数は中学生・高校生を合わせて、56名です。バンド数は現在、8バンドが活動しています。コーチは外部指導員という形で、卒業生が2名、不定期で来てくれています。

活動費については、部員から月額750円：年間と言うと、9000円を徴収しています。年間予算で新しい楽器や機材を購入したり、備品の修理に充てたりするほか、最近では、軽音楽コンテストに出場するための大会遠征時のバス代に充てることが多くなりました。

●普段の活動内容と年間を通した行事などは？

笹島…活動日は月曜日から金曜日までの平日で、放課後の2時間です。その中で

さんの軽音楽部と交流をしたり、軽音楽系の各種コンテストにエントリーしています。

研究発表会では、パーマメントのバンドだけでなく、発表会のためにメンバーを募って組んだバンドで演奏を披露するライブです。普段、一緒に演奏することのないメンバーと合奏することで、新たな刺激を受けてもらい、仲間と一緒に音楽を奏で、楽器を演奏する楽しさを感じて欲しいと考えています。ちなみに、合宿期間中も、いつもとは違うメンバーでバンドを組ませています。

●貴校ならではのユニークな活動は？

笹島…いろいろと考えてみたのですが、本校軽音楽部の目玉は「合宿」だと思います。1つのバンドに先輩と後輩が必ず入るようにバンドを組んでおり、先輩が後輩たちを引き上げつつ、後輩たちは普段は演奏しないような難しい楽曲に取り組んでいます。合宿には、中学2年生から参加できるので、中2から高2まで、たくさんユニークなバンドが生まれています。合宿を通じて、縦のつながりが強固なものになれば…という思いで実施しています。

今日（取材時）が2日目なのですが、朝からずっとスタジオで練習しています。明日の最終日は練習の成果を披露する「発表会」です。合宿を通じて、部員間の上下関係やコミュニケーションが円滑になりますし、先輩・後輩の仲が良くなり、距離もグッと縮まります。中学2年生にしてみたら、高校2年生は大きなお兄ちゃ

●部活動を運営する際の方針や目指しているものは？

笹島…私自身が高校生の頃に所属していた部活動でもあるので、これから少しずつ残り続ける部活動であつて欲しい…という思いが大きいです。それを実現するためにも、どのような部活動にしていけば良いのかを日々考えています。昨今は、部活動の在り方や活動規模の縮小などが話題になることが少なくないので、主体である部員たちの「こんな部活動にしたい」「あんなことをやりたい」という意見を取り入れながら、部員たちが中心となる部活動になれば良いな…と思います。

●貴校の部を一言で表すと、どんな部活動ですか？

笹島…そうですね：「優しくて、他人思いで、気の良い音楽好きの集まり」という感じでしょうか（笑）。明るい子たちばかりで、常に部活動を良くしようという思いでいっぱいだし、普段の練習も熱心に取り組んでいるので、顧問としても応援し続けていきたいです。

インタビュー・三谷暢之



笹島裕之

1983年兵庫県生まれ。2009年より三田学園中学高等学校に勤務している。指導教科は理科。学生時代に軽音楽と出会い、恩師の指導を受ける。その後、縁があり軽音楽部の顧問になり、現在に至る。音楽は聴くのも演奏するのどちらも好き。

基本を笑う者は基本に泣く！

みんなのできる基礎練習

リズム・トレーニング初級編

リズムは音楽の要です。日本人は世界の国々に比べ、「リズム」が弱いと言われます。しかし、日本人が端的にリズム感が悪いというわけではありません。「気にしていない」だけなのです。日本人が音楽を聴く場合、「歌詞」や「メロディー」に重きが置かれます。また、音楽を演奏する時に気にかけるのは「感情」と「テクニック」です。さらに言えば、「リックス」「パフォーマンス」「コーラスワーク」という部分をバンドをやる上でポイントとすることが多いようです。もちろんそれらも重要なファクターですが、ポピュラー・ミュージックにおいて、最も重要なのは「リズム」です。リズムがメンバー同士や観客との唯一の共通項となります。

個々の歌唱や楽器の上達、アンサンブルをまとめるためにも、まずはリズムがあって、初めて音楽であることを理解していただき、効果的な基礎練習でリズムを強化しましょう。

ほとんどの人が曖昧に使っている「リズム」という言葉の再定義

一口に「リズム」と言っても、日本人の悪いクセで、様々なことを一括りにしてしまっているため、ごちゃごちゃに使っている言葉を、まずは明分化してみましょう。整理すると、①テンポ ②リズム ③グルーブに分かれます。

メトロノームに合わせて演奏することやハシったり、モタったりすることに関するのは「テンポ」のことです。「リズム」とは、いろいろな音符や休符の長さをちゃんと保って演奏すること、フレーズが気持ち良くはまっているかに関わること。「グルーブ」とは、演奏全体が作り出す1つの大きな「波」の総称で、ジャズの世界では「スウィング」と呼んでいます。アドバイスをする方も受ける方も、この違いを曖昧にしているため、真意が伝わらないことがよくあります。「リズムを良くしたい」と言う生徒

に対して、「メトロノームの練習をしっかりとしなさい」と言うのは間違ったアドバイスです。しかも、生徒の方も、実は「メトロノームに合わせて演奏ができない」という、テンポキープに関する悩みの場合もあり、その時に先ほどの答えでは、何もアドバイスしていないのと同じことになってしまいます。また、そういったボタンの掛け違いの答えを聞いても、多くの日本人は「はい」としか言わないのが常です。

テンポ、リズム、グルーブだけでなく、「ノリ」という言葉もよく使います。グルーブと同じ意味で使われる場合もありますが、本来は「高揚している」「ヤル気になっている」「空気が読めている」というような意味です。また、「素早く行え」という意味で、「テンポ良く」という表現もします。本当に日本人はニュアンスで言葉を上手に使う、類希なる優れた民族だと思います。まずは指導する側が言葉の意味をしっかりと使い分けることで、アドバイスが的確になります。

テンポキープを身に付けるための体を使った効果的な練習方法

テンポをキープさせるためにはメトロノームを使うのが一番です。実際にバンドなどで演奏する時に、メトロノームを流しながら行うことも良い練習方法ですが、あまりやり過ぎると、堅苦しい、それこそ感情のこもらない演奏になりがちです。テンポ感は本来、個人のスキルとして上達させなければならないものなので、各々がしっかりとメトロノームで練習をして、合奏に臨む方が良いでしょう。

例えば、譜例1のようなフレーズを足などでテンポを取りながら手拍子します。手が痛くなるので、両手で腿を叩いたり、ドラムの練習台をスティックで叩いても構いません。これはリズムの練習ではないので、手拍子のフレーズが様々に変わっても、メトロノームとズレていないかを重視します。この練習を「チェンジアップ練習」と言います。手で叩くフレーズが変わ

▼譜例1 チェンジアップ練習の例



▼譜例2 ペア練習の例



っても、メトロノームが出すテンポをしっかりとキープする練習です。耳でメトロノームを聞きながら合わせ、次は何かと考えもするので、体を動かしながら頭を使うことも同時にできるようにする訓練でもあります。

この練習は徐々にメトロノームのテンポを上げていくのではなく、80、120、90、110、75、60、100…など、速さをアットランダムに行くと、様々なテンポチェンジに素早く対応できるようになり、効果的です。また、譜例2のように2人ずつペアになったり、2つのグループに分かれて、別々のフレーズを叩くのも打楽器のアンサンブルのようになり、みんな楽しくできると思います。

慣れてきたら、チェンジアップのフレーズの順番を入れ替えたり、足踏みを片足だけでなく右左交互にすると、パラパラのようなツーステップや昔懐かしいボックスのステップにしたりすると難易度が上がります。

音符と休符の長さを理解することがリズム・キープ体得への第一関門

いくらメトロノームで練習をしても「テンポ感」は身に付きませんが、「リズム感」は養われません。ざっくり言うと、時間の区切りの点を一定に保つこと（メトロノームに合わせて）がテンポ・キープで、その時間の区切りの間を、様々な音符の長さで保つことがリズム・キープです。逆説的に言えば、良いリズムがキープされていれば、必然的にテンポは一定になります。テンポが揺れている演奏は「良いリズム」と感じないからです。

リズム・キープの練習は楽器を持ってコードや音程を決めて、同じテンポでいろいろな音符や休符の長さを演奏することが第一歩です。ボーカルは声で行い、ドラムは音の長さを調整で

▼譜例3-1



▼譜例3-2



▼譜例3-3



▼譜例4



きるハイハット・オープンで行いましょう。もちろんピアノなどを弾いても構いません。この練習で大事なことは「発音し始める場所」や「打点」ではなく、「音を切る場所」です。譜例3-1で言えば、ジャン、ジャン…ではなく、4分音符の長さをしっかりと保って、ジャン、ジャン…と演奏しましょう。同時に休符の長さも意識すると、さらに良いでしょう。休符は「お休みの場所」ではなく、「音のない音符」です。4分休符の長さもしっかりと意識しましょう。

メトロノームを流しながら行うことは、テンポをキープしながらリズム練習ができるのでとても効果的ですが、メトロノームなしで行うと、合奏する意識や責任感が増して、さらに効果があります。ゆっくりなテンポだとかなり難しくなりますが、メトロノームに頼らずにキープすることを意識できるようになるはず。また、ギターチームだけ、ボーカルチームだけ

などとパート別に行ったり、いくつかのチームに分かれて、別のパターンを同時に行ったりしても良いでしょう。

慣れてきたら、譜例4のように音符と休符をアットランダムに配置してフレーズにしたり、弾くコードを変えていっても良いでしょう。難易度は上がりますが、音楽的になっていくので、楽しみながら練習ができると思います。繰り返しますが、大事なことは音符の長さや休符の長さを弾き分けて演奏することです。

リズムはコミュニケーション・ツール 楽しく練習を行いましょう

初歩のリズム・トレーニング（ここで言うリズムとは、テンポやグルーブも含みます）には、楽器や特に難しいフレーズなどは必要ありません。最近では小さな子供たちのコミュニケーション練習として、打楽器などを使ったリズム遊びが行われています。リズムは音楽やバンド演奏をする時の土台となるものです。ぜひ音楽の楽しさの中に「リズム」があることも生徒に教えてあげていただきたいと思います。

基礎練習とは、基本的に地味でつまらないものです。「大事だからちゃんとやれ！」で済めば良いのですが、なかなかそういきません。校風や気質にもよりますが、ストイックに行うだけでなく、どうすれば楽しく、みんなが基礎練習ができるのか、を考えてみる必要があるかもしれません。

文・辻 伸介



基本を笑う者は基本に泣く！

みんなのできる基礎練習

リズム・トレーニング上級編

前回の記事では「我々、日本人は『リズム』という言葉をやや曖昧に使っている」「リズムという言葉には『テンポ』や『グルーブ』という内容も含まれている」とお話ししました。テンポとリズムに関しては前号を参照していただくとして、今回は「グルーブ」について解説します。

まず「グルーブとは一体、何なのか」ということですが、ポピュラー・ミュージックを生んだアメリカの人たちが言い出したことなので、日本人にはなかなか理解しにくい概念です。特にリズムに疎い日本人には、かつて良い言葉の響きとメンタル的なイメージだけが先行してしまっているようです。よく「グルーブ＝ノリ」と解釈されていますが、この2つは離して考えた方がよいと思います。

故・忌野清志郎が客席に向かって「ノッてるかーい！」と叫んでいたように、「音楽に身を任せて楽しむ」「音楽を聴いて体が動いてくる」感じが「ノッている」という状態であり、本来は「グルーブ」とは似て非なるものと言えるでしょう。演奏者からすると、「グルーブ」とは受動するものではなく、能動するものだと考えれば、わかりやすいかもしれません。音楽を演奏する際に、いかに楽曲を「グルーブ」させ、その結果、聴く側を「ノせる」ことができるか、ということです。この感覚はクラシックにはありません。

欧米人や、もしかすると日本人以外のアジア人は音楽を演奏する際にグルーブする感覚を最初から持っています。しかし、日本人にその感覚がないのではなく、音楽を演奏する際に必須なものとして捉えていないだけなのだと思います。日本人にとってのグルーブ練習とは「覚える」ことではなく「発見していく」こと、あるいは「目覚めさせる」ことに近いのかもしれません。

とはいえ、日本人のDNAに組み込まれている「日本式の音楽の感じ方」から欧米のそれに

変換するのは並大抵のことではありません。まずは「欧米式の音楽の感じ方」、すなわちロックの「ノリ方」を分析してみるところから「グルーブ」について考えてみましょう。

ウラがなければ、オモテはない アップしなければ、ダウンしない

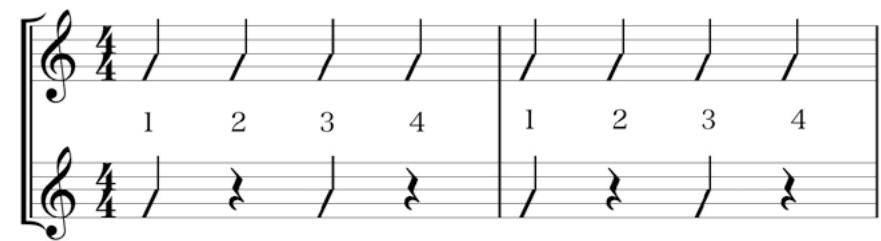
グルーブ感を持って生まれたセンスや音感など、ポテンシャルによるものと思われがちですが、歌や楽器の技術、音楽知識と同じように「グルーブする練習」を行えば、メキメキと良くなります。なぜなら、前述したように日本人はグルーブができないのではなく、しようとしていないだけだからです。

日本と欧米では拍子の感覚が違います。4分の4拍子の楽曲で日本人が手拍子をする場合、ほとんど1拍目と3拍目に手を打ちます（譜例1）。しかし、これでは宴会でオジサンたちが歌いながら手拍子をしている時のように、少

し「どっこいしょー」という野暮ったい感じになってしまい、ロックのグルーブには合いません。ロックのグルーブ・ポイントは2拍目と4拍目（ドラマーがスネアを叩く位置）にあり、これを「バックビート」と呼びます。わかりやすく童謡で比べてみると、例えば、「さーいーたー、さーいーたー」と「チューリップ」を1拍目と3拍目で手拍子する時よりも2拍目と4拍目でした方が、なぜか体が勝手に動き出して、楽しくなってくると思います（譜例2）。

演奏する際に、この感覚を常に持つためにはメトロノームのテンポを半分にして、2拍目と4拍目に感じながら合わせる練習が効果的です。4分音符で出した時よりもバックビートを意識することができ、アンサンブルになった時でもスネアを感じながら演奏することができるようになります。特に効果があるのはドラマーとボーカリストです。テンポキープが苦手なドラマーには「スネア（バックビート）」を気持ちの良いポイントで叩き続けられるように、意識

▼譜例1 4分の4拍子の場合の日本人の手拍子



▼譜例2 「チューリップ」のメロディーとバックビートの手拍子（下段）



して練習しよう」とアドバイスをしてください。ボーカリストにはバックビートで手拍子をしたり、腿を叩きながら歌うように練習させると、バンドの演奏にハマるようになっていきます。

グルーブするDNAを呼び起こす、 バックビートの感覚

この3次元の世界には、必ず裏と表があります。裏があるから表があり、裏のない表などはありません。人間も裏表のある人は裏の顔があるから、そう言われるのです。また、重力が支配するこの地球上で、上らずに下がるものはありません。音楽も同様で、裏と表、アップとダウンがあって、初めてグルーブが生まれます。コンピューター・サウンドが今なお機械的に感じるのは、この2つがないからです。人間にしか出せないもの、感じられないもの、それが「グルーブ」なのです。

世界の国々と比べると、日本は「行進」が下手だと言われます。それは日本人が行進する際に、足を地面に付けたタイミングで「1、2」とカウントするのに対して、他国では足を上げた時にカウントするからです。他にも、例えば、腕立て伏せをする場合、日本人は上体を下げる際に数を数えますが、欧米では腕を伸ばして体を上げる際にカウントします。足を上げたタイミングでカウントする練習をするなど、まずは慣習の違いを変えてみて、「グルーブ」というものを体感することが上達の近道です。

音楽上では、グルーブのアップの位置のことを「裏拍」と呼びます。グルーブはすべて裏拍＝アップから始まります。まずこれを理解して、演奏する際に意識することが大切です。譜例3

▼譜例3 裏拍から押し出されるような感覚を掴むのがポイント



▼譜例4 裏から表、アップからダウンへの感覚を身に付けること。下段は裏拍のメトロノームの位置



のようにギャロップ（足を入れ替えないで行うスキップ）を前に出した足からではなく、後ろに構えた足からスタートさせます。すると、「ターンタ、ターンタ」ではなく「タタン、タタン」と後ろから押される感じになると思います。あるいは、童心に戻って「アルプス一万尺」や「茶摘み」「おちゃらかほい」など、2人でペアになって手遊びをすることも効果的です。もちろん軽音楽部員なのですから、メトロノームを使ってテンポを崩さないように行いましょう。その際にメトロノームを裏の位置に出して、裏に来る言葉にアクセントを付けたり、4分音符で足踏みをしなから行くと、さらに効果的です（譜例4）。「ストイックな練習にならない」と懸念されるかもしれませんが、グルーブは音楽の中

にあります。音楽と一緒にないと、グルーブ感は養われません。馴染みのある童謡で楽しみながら練習することも、決して遠回りではないのです。

日本と外国の言葉や文化、 音楽の成り立ちの違いを理解する

バックビートの項でお話したように、日本人は1拍目で音楽を感じます。これは日本語（特に標準語）のアクセントがほとんど最初の文字にあることからくる現象です。しかし、外国語は単語や文章のアクセントがあまりアタマに来ないので、弱起（1拍目より前からメロディーが始まること）が多くなります。音楽の構造的に1拍目はとても重要なので、疎かにしてはいけませんが、ロックという外来音楽を理解するには、まずバックビート、裏拍から表拍（アップからダウン）への流れ、弱起など、西洋音楽の成り立ちや言語文化を知ることが必要になります。

今回は、練習方法というよりも解説の方が多くなってしまいましたが、まずはメンタル的なことから理解しなければ、グルーブは習得できません。しかし、最近の若者は産まれた時からロックや英語が周りにあり、今のJ-POPやJ-ROCKの1拍目にアクセントがない歌詞やメロディーに慣れています。もしかしたら、大人の方が難しいかもしれません。

文・辻 伸介



基本を笑う者は基本に泣く！

みんなのできる基礎練習

みんなでやる発声練習

楽器の基礎練習と同様に、ボーカリストにも基礎練習が必要です。音程や感情表現などが上手に歌えているかどうかではなく、ボーカリストとして「声で奏でているか」という観点に立ってみると、体を使って音を出すボーカルも「楽器」なので、たとえ上手に「歌う」ことができて発声もしっかりとできていない状態では、ギターやドラムといった楽器を「鳴らせていない」と同じです。多くの人が「ボーカルは天性の才能によるもの」と勘違いしていることが多いようですが、実はボーカリストこそ基礎的な練習が必要なパートなのです。発声の基礎練習を行い、「楽器」として体を使えるようにしていきましょう。

まず発声の身体的なメカニズムを、呼吸をコントロールする「Aエリア」、呼吸によって声帯を鳴らし、音域をコントロールする「Bエリア」、声帯で発声された音の音色をコントロールする「Cエリア」という3つのエリアに分けて考えます。少し専門的になってしまいましたが、その概念を理解していただいた上で、まずはAエリア、次にAエリアを元にBエリア、そして、最後にA、Bエリアを元にCエリア、と順番にステップアップして練習してください。個々の改善点や今後の練習方法も見つけれられるように、顧問の皆さんもぜひ取り組んでみていただきたいと思います。

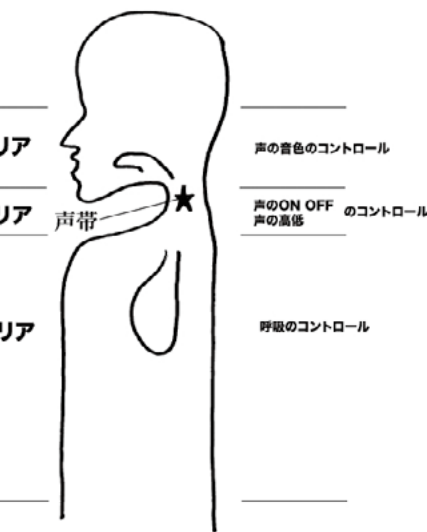
呼吸をコントロールする 腹式呼吸の基礎練習

歌の呼吸で重要なのは「腹式呼吸」です。まずAエリアの腹式呼吸の基礎練習から始めましょう。Aエリアでしっかりと腹式呼吸ができるようになるだけで、ビックリするほど音域が広がります。それだけではありません。声にアタックが出たり、音程の安定感も良くなり、声の表情と歌の存在感も出てきます。つまり、

特にボーカリストにとって、この腹式呼吸の基礎練習が「声の要」となるわけです。

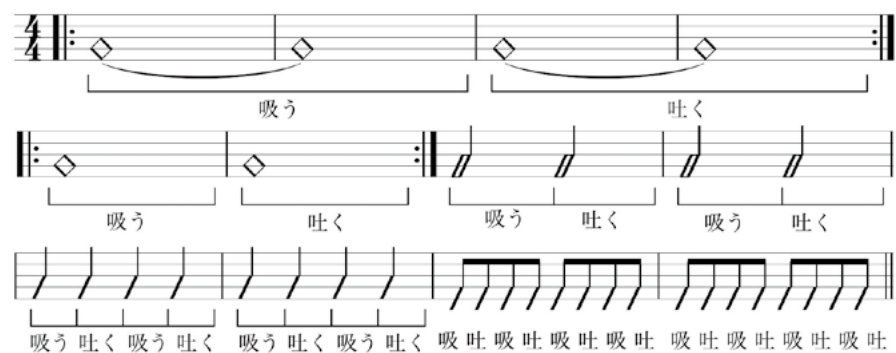
私たちが日常生活の中で行っている「胸式呼吸」では、空気を吸った時にお腹が凹み、空気を吐いた時にお腹が膨らみます。「腹式呼吸」はこの反対で、空気を吸った時にお腹が膨らんで、吐いた時にお腹が凹む呼吸法です。人間は眠っている時やあくびをする際、無意識に腹式呼吸をしています。無意識で行っていることを自分の意思でできるようにすることが目標です。腹式呼吸ができるようになれば、ボーカリストにとって必要な背筋や腹筋などの筋肉が自然と鍛えられていきます。

1人で腹式呼吸のお腹の凹凸を確認するよりも、複数人でお互いをチェックし合いながら練習した方が効果的です。まずは全員で円座になり、お腹に手を当てます。リーダーが「はい、ゆっくり吸って～。はい、ゆっくり吐いて～」という感じで、腹式呼吸を最初は3秒ずつくらいかけて繰り返しましょう。腹式呼吸がスムーズにできるようになったら、



▲発声の3つのエリアのイメージ図

ら、リズム練習も含めて、メトロノームや適当な楽曲に合わせて行います。J = 100 ~ 120 くらいのテンポで「2小節吸って、2小節吐く」「1小節吸って、1小節吐く」「2拍吸って、2拍吐く」「1拍吸って、1拍吐く」「半拍吸って、半拍吐く」を2回しずつなど、連続して行くと良いでしょう（譜例1）。



譜例1 腹式呼吸をリズムに合わせて行う

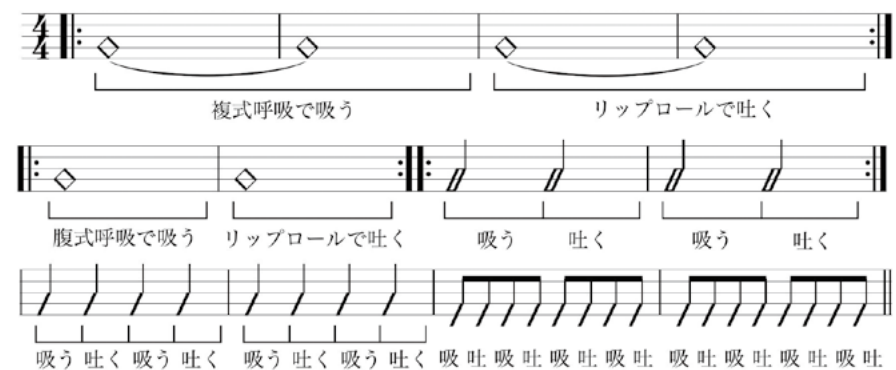
楽器パートの人が基礎練習をするような感覚で、しっかりとリズムに合わせて呼吸することを心がけてください。リズムに呼吸が合い出すと楽器を演奏しているような感覚になり、地味な基礎練習も楽しくなってくると思います。

音域をコントロールする リップロールの基礎練習

次は声帯を鳴らし、音を出して音域をコントロールするBエリアのための「リップロール」の基礎練習と発声練習です。まずリップロールのやり方を説明します。肩の力を抜いて、腹式呼吸で肺に十分に息を吸い込んでお腹がぶくぶくと膨らみ、息を吐く時にお腹が凹んでいく感覚で、鼻から空気を出さずに口から息を吐きます。その際、口蓋を開き、舌根を下げるのが重要です。息を吐く時に歯を噛み合わせ、口を完全に閉じた状態で唇を震わせながら「ブルブルルル」と発声します。もし「ブ、ブッ、ブー」という風に息と発声が乱れる場合は100%の腹式呼吸ができていないということです。5 ~ 10秒以上「ブルブルルル」と自然に継続できれば、腹式呼吸で声帯の音が安定した筋肉の状態で鳴っているということになります。

はじめのうちは軽く口の周りを指で押さえてやってみるとコツが掴めると思います。リップロールに慣れるまでは多少の個人差はありますが、なかなかうまくリップロールができない人でも地道に繰り返せば、必ず誰でもできるようになります。焦らず、根気強くトライしてください。

リップロールができるようになったら、リズ



▲譜例2 リップロールをリズムに合わせて行う。リップロールを発声に変えれば、Cエリアの練習になります

ムの中で練習すると、より効果的です（譜例2）。この基礎練習を習慣づけることで「呼吸のポンプ」と「声帯の鳴り」がリズムにきっちりと合うようになり、歌のリズム感も良くなっていくと思います。

腹式呼吸によるリップロールで音が鳴っている状態は、歌っている時に声が枯れにくくなることにもつながります。また、歌う前の喉のウォーミング・アップとしても有効で、リップロールでしっかりと喉を温めておくことと声の持久力もアップします。

音色をコントロールする 喉の基礎練習

最後に、音色をコントロールするCエリアの基礎練習と発声練習です。人間は口を開けると、無意識に舌根が上がる（喉が閉まる）よう

になっています。これは体内にバイ菌などが入らないようにするための本能的なものです。これを意識的にリップロールの状態から自然に発声できるように練習していきます。

複式呼吸でリップロールしながら口蓋を開いて、舌根を下げた状態を保ったまま音を止めずに口を開け、「アアアアア」と発声します。慣れていないと舌根が上がり、喉が閉じて細い音になってしまうと思いますが、舌根を下げたまま力を抜いて、口だけを開けて発声することができれば、太くて芯のある声が自然に出ます。焦らず、何度も繰り返してマスターしましょう。理論的に考えるよりも感覚的に自分の声を太く、芯のある声に近づけていく意識を持つことが大切です。イメージとしては遠くの山に向かって「ヤッホー」と大きな声を出すような感じで発声すると、比較的簡単にできるようになると思います。

スムーズにできるようになったら、A、Bエリアもしっかりと意識しつつ、リズムに合わせて同じように発声練習をしましょう。先ほどの譜例2をリップロールから上記のCエリアを使った発声に変えて行ってください。やはりJ = 100 ~ 120 くらいの、ゆっくりなテンポから始めましょう。

発声の練習は楽器と違って目に見えないので、難しく感じる生徒もいると思います。しかし、「体の使い方を覚える」という意味では楽器の習得と同じです。まずはゆっくりと優しく、安心感を与えながら指導にあたってください。

文・伊丹谷良介



軽音
ちゃん
ねる



出場バンドの演奏映像を YouTubeで公開中！



QRコードを読み
取って、チェック！

2020年から最新の夏大会（2024年）まで、
全国学校軽音楽部協会主催の大会に出場した
583バンドの演奏映像を視聴できます。プロ
ジェクターで動画を映し出したり、部のPAシ
ステムで音声を大きく出力するなどして意見
交換や検証を行うなど、部活動全体はもちろん、
各バンドや個人でも、他校のバンドから
学び、演奏技術やパフォーマンス、ステージ
での振る舞いの参考に活用してください。

第15回

愛知県高等学校軽音楽大会

30 バンド



特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



第5回

高等学校軽音楽コンテスト
関東大会

25 バンド



第8回

高等学校軽音楽コンテスト
近畿北陸大会

19 バンド



第10回

高等学校軽音楽コンテスト
中部大会

20 バンド



第1回

高等学校軽音楽文化祭
国際大会

8 バンド



人のプレイ見て我がプレイ直せ

YouTube の演奏映像を見るポイント

軽音協のYouTubeチャンネルは、学内外での軽音楽部の宣伝や記念として活用していただくと共に、「他校との違い」を研究する良い材料になります。音楽的なチェック・ポイントを挙げてみますので、良いプレイは参考にし、まだまだな部分は反面教師として、部員たちと一緒に何度も見てモチベーション・アップ、ステップ・アップへとつなげてください。

プレイ

大会において、いくら個人力より総合力（アンサンブルや演奏のまとまり）を重視して審査しても、やはり技術力が高い方が有利になることは間違いありません。単純に、上手なバンドの演奏を見るだけでも部員のモチベーションは上がると思います。「あんな風に歌ったり演奏してみたい」という憧れは、大きな原動力となるでしょう。しかし、本当に見るべきポイントは、「上手さ」ではなく「巧さ」です。高い技術力を使っていかに楽曲を表現し、アンサンブルにマッチさせているか。自己表現だけではなく、合奏のために身につけた技術を使っているか…は、研究してみる価値がある部分です。

また、賞を獲るようなバンドに共通しているのが「リズムの良さ」です。個人個人もそうですが、バンドでのリズムの一体感をどれだけ重視しているかは、総合力として表れます。リズムの良さは、スタッカート、テヌート、音価、強弱、アクセント、シンコペーションといった音楽的な部分の習熟に表れるとも言えます。

パフォーマンス

パフォーマンスと言っても千差万別ですが、「見られている」と「見せている」ではステージングに大きな違いが出ます。いわゆる「発表会」とポピュラー・ミュージックの「ライブ」では目指す目標が少し違います。軽音楽はエンターテインメントなので、何かを「伝える」意識も必要です。当然、慣れもありますが、ステージ内だけを気にして演奏しているのか、ステージの外の観客に向けて全員で何かを伝えようと演奏しているかは、大きな差となって出てきます。

初歩の段階では、リズムに乗って体を動かし、キメやアクセントを体が動くくらい大きく捉える、他メンバーと合わせるべきところを体を使って行う…といったことを意識するだけでも見え方はだいぶ変わります。個人の例で言えば、しっかりと前を向いてプレイしているか、顔の表情を意識しているか、演奏中にメンバーとアイ・コンタクトを取っているか、歌ったり演奏していない時に気が抜けていないか…などもチェックしてみてください。特にフロント・マンであるボーカリストは、手の使い方や目線なども重要です。

機材、サウンド・メイク

ギター・アンプやベース・アンプといった大会の常設機材は、普段学校で使っているものと違う機種になります。同じ型番であっても個体差があるので音は変わります。当日にあたふたしないためにも、現在ではエフェクターを使って音を作り、アンプによる音の変化を少なくすることが一般的です。使用機材が一緒なものに関わらず、バンドごとにサウンドが違ったり、楽曲に合った音作りをしているかも注目して欲しいポイントです。

ギターとベースは、チューニングにも注意が必要です。初心者の場合はそこまで気がまわっていないことも多々あります。また、楽器本体

の調整ができていなかったり、変則チューニングに全員が合わせていなかったりすると、せっかくの演奏も台無しになってしまいます。

サウンド面に関しては、キーボードも同様のことが言えます。キーボードを持ち込んだバンドは、音色の調整をしていることがほとんどです。また、ドラムのペダルやスネアも普段との違いに苦しむ可能性があります。スネアやペダルを持ち込んでいないドラマーは、違和感を感じながらプレイしているかもしれません。

楽曲

コピーの場合、注意が必要なのは「選曲」です。レベルに合っていない楽曲であれば、ミスが多くなるのも当然です。挑戦と確実性とのバランスが難しいですが、各バンドのレベルと選曲をアナライズしてみても面白いと思います。

また、全国ではオリジナル曲を作っている学校やバンドが増えています。楽曲自体の良し悪しではなく、その「創作過程」を推し量ることも参考になります。メンバー間で意見を出し合い、きちんと「揉め」ながら1つの作品を作ってきたか、お互いを尊重しながら自分の居場所を理解し、「One for All, All for One」になっているか、皆んなでメッセージを伝えようとしているか…といった辺りを探っていくと、バンドとしてのまとまりが見えてきます。



第3回 高等学校軽音楽コンテスト 中部大会 グランプリ
カカオ 52% / 愛知県立岩倉総合高等学校
まさに総合力の勝利。全員のリズムのキレが心地良い



第8回 愛知県高等学校軽音楽大会 奨励賞
すずらん / 名古屋経済大学市邨高等学校
大人数でのオリジナル曲。演奏のまとまりが強い

CONCERT
STAFFRECORDING
ENGINEER

ACOUSTIC MEDIA DEPT.

CONCERT EVENT DEPT.

2025年度 八王子校に
ダンスパフォーマンス科新設!

It all begins here!

新ダンススタジオ完成!!
(八王子校)

DANCER

MUSICIAN

VOCALIST

MUSIC ARTIST DEPT.

コンサート・イベント科 職業実践専門課程

- コンサート制作コース ●コンサートPAコース ●コンサート照明コース
- コンサート舞台コース ●イベント企画コース

ミュージックアーティスト科 職業実践専門課程

- サウンドクリエイターコース ●ヴォーカリストコース ●プレイヤーコース

音響芸術科 職業実践専門課程

- レコーディングエンジニア専攻 ●MAエンジニア専攻 ●ラジオスタッフ専攻

ダンスパフォーマンス科 職業実践専門課程(蒲田校のみ)

- プロダンサー専攻 ●バックダンサー専攻 ●ダンス&ヴォーカル専攻
- コレオグラファー(振付)専攻 ●ダンスインストラクター専攻
- テーマパークダンサー専攻

※2025年度 八王子校新設

日本工学院 ミュージックカレッジ

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

☎0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22

☎0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1

https://www.neec.ac.jp/

LINE @nihonkougakuin

X @neec_official

Instagram @nihonkogakuin

入学願書
受付中!コンサート
スタッフ
の仕事裏方としてイベント
に携わる仕事です

日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校

音楽やエンタテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はコンサートスタッフの仕事について、日本工学院専門学校／コンサート・イベント科の小保方ひなの先生に伺いました。

ー コン서트スタッフのお仕事全般について教えてください

小保方：コンサートスタッフの仕事は、一言で言うと「お客さんが最高の時間を過ごせるようにすること」ですが、その内容は幅広くあります。

ライブはアーティストがステージで輝いているように見えますよね。舞台のセットを担当する美術スタッフや楽曲の世界観に合わせてライティングを行う照明スタッフ、アーティストの歌や演奏が最高に聴こえるようにマイクやスピーカーの音を調整するPAエンジニア、舞台上の総責任者として、すべての動きを把握して調整・進行する舞台監督など、アーティストが気持ちよくパフォーマンスできるように支える仕事があります。

他にも、チケットを確認したり、座席までのご案内やグッズを販売したりする仕事もあります。また、ライブが終わった後は安全に退場できるように誘導する仕事もあります。ライブというものは人が一度に集まるので、混乱のないようにするのも大事な仕事になります。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですが、高校時代にやっておいた方がよいことも教えてください

小保方：入学前に特別な知識は必要ありません。ただし、コンサートやライブの現場では、音楽のジャンルや演出の違いを理解し、状況に応じて柔軟に対応することが求められます。そのため、入学前からできるだけ多くのジャンルの音楽を聴いたり、様々なアーティストのライブやコンサートを観たりすることで、自分の中に「引き出し」を増やしておくことが大切です。

また、ライブやイベントの舞台裏に興味がある場合はステージの作りや照明、音響の変化、

スタッフの動きなどにも注目しながら観ると、より深い理解につながります。実際にコンサートやフェスに足を運んで、観客の視点だけでなく、運営側の視点からもイベントを観察する習慣をつけるのもおすすめです。

ー お仕事の楽しいところや、やりがいを感じる瞬間を教えてください

小保方：たくさんの観客が集まるコンサートやイベントに運営側の一員として関わり、その舞台裏を知ることができるのは、この仕事ならではの魅力です。アーティストが最高のパフォーマンスを披露し、それを見た観客が感動し、笑顔になっている瞬間に立ち会えることは、大きなやりがいにつながります。自分が携わったイベントが成功し、多くの人の思い出に残る時間を作り出せたとき、特に大きな達成感を感じます。

また、コンサートスタッフの仕事を通じて、音楽の趣味の幅が広がるのも楽しみの1つです。普段は、あまり聴かないジャンルの音楽に触れる機会が増え、新しいアーティストやバンドの魅力を発見できることもあります。さらに、チームワークが不可欠な仕事であるため、普段の生活ではなかなか出会えない人たちと知り合い、一緒にイベントを作り上げる楽しさを味わえるのも大きな魅力です。時には忙しく、大変な場面もありますが、大勢のスタッフが力を合わせてトラブルを乗り越え、イベントが無事に成功した時の達成感は格別です。

ー お仕事の大変なところを教えてください

小保方：突然のトラブルやスケジュールの変更に対応しなければならず、常に緊急対応力が求められます。また、多くの人たちが1つの公演に対して関わっているため、全体のスケ

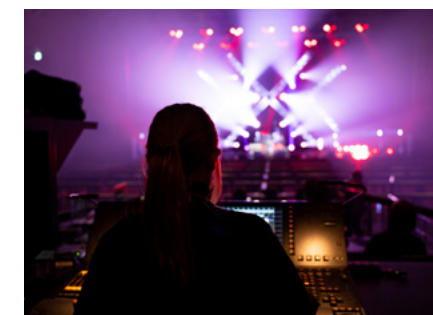
ジュールを把握するため、報告・連絡・相談を大切にしています。

ー コン서트スタッフのお仕事は、どんな人におすすめですか?

小保方：この仕事は音楽やイベント、エンタテインメントが好きで、誰かをサポートすることにやりがいを感じたり、常に面白いことを考えるのが好きな方に向いています。多くの人たちと協力して作業を進めることが求められるため、チームで働くのが得意な人におすすめです。

ー コン서트スタッフの仕事続けるのに大切なことは何でしょうか?

小保方：コンサートスタッフとして仕事を続けるためには、まず「エンタテインメントを楽しむこと」が非常に大切です。トラブルや急な変更が頻繁に発生する現場では「柔軟性と適応力」や「コミュニケーション能力」も求められますが、まずは自分自身が楽しむことで「楽しいこと」が生まれるため、エンタメを全力で楽しんでください。そして、楽しむために「体調管理」をしっかりと行い、健康を維持していくことも大切なことの1つです。



▲お客さんが楽しむ環境を作っていく

エンタメ&クリエイティブの専門学校



VISUAL ARTS

東京 / 名古屋 / 大阪 / 福岡

ビジュアルアーツ・アカデミー

ACADEMY

Akademeia 21st Century



ミュージシャン
声優・俳優・タレント
ダンス・ダンスボーカル
ネットタレント・インフルエンサー
映像クリエイター(3DCG・VFX)
テレビ放送・映画スタッフ
コンサート・舞台スタッフ
レコーディングエンジニア
サウンドクリエイター
映像音響(MAエンジニア)
写真・デザイン
マスコミ出版
芸能マネージャー
特殊メイク

※地区によって教育分野が異なります

大学も専門学校も超える新たな学びの場



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century

専門学校 東京ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校 東京ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 大阪ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 ビジュアルアーツ専門学校より校名変更)

専門学校 名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 名古屋ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 福岡ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校 九州ビジュアルアーツより校名変更)

声優の仕事



常に自分を磨き続ける 意識を持つこと!

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回は声優の仕事について、専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー／声優学科の寺田充典先生に伺いました。

ー 声優のお仕事全般について教えてください

寺田：声優の具体的な仕事について、わかりやすいところと言うと、アニメや外国映画の吹き替えが挙げられると思います。それから、テレビやドキュメンタリーのナレーターなどの映像にまつわるナレーション全般でしょうか。元々、声優は俳優のお仕事だったので、舞台をはじめ、ドラマや映画に出演するケースもあります。

本校の声優コースの学生は「アニメ声優」になりたい子が多いのですが、外国映画の吹き替えやナレーターに憧れて、入学する学生もいます。中には「俳優と声優のどちらに進もうかな…」と、迷いながら入学してくる学生もいるのですが、最初の1年間は「俳優コース」も「声優コース」も同じカリキュラムの授業を受けることになります。1年間、授業を受けて、2年生に進級するタイミングで、「俳優・タレント」「声優」「ネットタレント」のどれかを選択できるのが、声優学科の特長の1つとなっています。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか。高校時代にやっておいた方が良いことも教えてください

寺田：入学前に必要な知識や資格などはないのですが、アニメはもちろん、映画や舞台などの「表現」をしっかりを見ておいて欲しいと考えています。

高校時代にやっておいた方が良いことについては、「初見読み」をオススメしています。これは文字通り、「初めて読む・初めて見る」ことを指すのですが、オーディションなどで原稿をバツと渡されて、「早速、読んでください」と言われる時があるんです。そのための訓練として、新聞や雑誌、本などをバツとページを開いて、そこに書かれている文章を間違わずに

しっかりと読む練習をする…。最初のうちは、すぐに嘔んでしまったり、詰まってしまうと思うのですが、このトレーニングを続けていると、初めて読む文章であっても、落ち着いて、滑舌よく発音することができるようになります。

個人的には、高校生のうちに日常生活で見たり、聞いたり、特に大切にしたいのが、「感じたこと」をしっかりと記憶(記録)しておいて欲しいと考えています。高校生の頃の感性で見たものや聞いたもの、感じたことを自分の中にストックしておくと、将来、自分が表現者になった際に「引き出し」として使うことができるようになります。

ー 声優のお仕事の楽しいところや、やりがいを感じる瞬間を教えてください

寺田：単純に「(その役を)演じることが楽しい」というところでしょうか…。もう少し具体的に言うと、「何者にもなれる」という部分で、特に声優に関しては「人間以外」にもなれるので、そこが一番楽しい部分だと思います。文字で書かれたものである台本(二次元的なもの)に生命を吹き込み、自分の声を使って演じていくところが、声優の醍醐味ではないでしょうか。また、自分が演技をし、役になりきることで、誰かの心を動かすことができる、特に不特定多数の人々に想いを届けることができるという点は、なかなか他の業種には当てはまらないと思うので、やりがいを感じる瞬間の1つです。

ー 声優のお仕事は、どんな人にオススメですか?

寺田：「何かを演じたい」とか「自分を表現したい」という、何か伝えたいものがある人が声優に向いていると思います。本校はもちろん、プロの世界に入ってから、技術面については学ぶ機会がたくさんありますし、どんな人ス

ルアップしていくものなので、「自分の表現を見て欲しい!」と強く思える人にオススメの職業です。

ー 声優の仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか?

寺田：1つ目は体調管理をしっかり行うことです。声優さんは個人事業主ですので、現場に行かないと収入がありません。そのため、体調管理ができないといけませんし、特に喉のケアに関しては、徹底的に行うことが大切になります。

2つ目は「常に自分を磨き続ける」という意識を持つことです。絵が好きなのであれば、いろいろな美術館に行って絵を見たり、音楽が好きなのであれば、いろいろなジャンルの音楽を聴いて…というだけで構いません。また、自分の感性を豊かにすることを念頭に、基礎練習を繰り返して行い、スキルが落ちないようにする努力を惜しまない点も重要と言えます。

3つ目は、どの業種にも言えることなのですが、「好きなままにいること」です。「もう辞めたら?」と周りから言われても「やります!」と言えるくらいの人じゃないと、声優の業界は厳しいところがあるので、周りから反対されても、やるんだ!という強い想いをもち続けることが大切だと思います。



▲実習を通じて、役になりきるためのスキルを磨きます